

改訂版

はじめよう！ 道徳科



1

道徳科って
どんな教科なの？

3

「考え、議論する
道徳」ってどんな
授業なんだろう？



2

授業づくりは、
どのように
行えばいいの？

4

道徳科における
評価は、
どうするの？

なぜ、教科化されたの？

道徳が教科化された背景には、全国で発生した深刻ないじめ問題などが関係しています。本来、道徳は、いじめの防止に向けた重要な役割を担うものですが、読み物の登場人物の気持ちの読み取りで終わったり、表面的な発言や記述に留まったりするなどの課題が指摘されていました。

いじめ問題が深刻な状況にある今こそ、道徳教育の重要性を改めて認識し、その一層の充実を図るため、平成27年3月に学習指導要領が一部改正され、教科化へと至ったのです。

どのようなことが求められているの？

道徳科の授業では、いじめ問題をはじめとする現実の様々な問題に対応できる資質・能力を育むことが一層求められます。そのためには、例えば、「いじめは許されない」などを教師が一方的に説明するのではなく、「なぜ、いじめをしてはいけないのか？」などについて、児童生徒が自分自身の問題として向き合い、考え、議論するような授業を積極的に行うことが大切です。

現実のいじめの問題に対応できていなかったのね。



①「特別の教科 道徳」とは

教科化で変わったこと

○採択された教科書の使用

・主たる教材として、年間指導計画に位置付けて活用します。

○道徳科における評価

(詳しくは、④「道徳科における評価とは」を参照)

教科の捉え方(小学校)

各教科	特別の教科 である道徳	外国語 活動	総合的な 学習の時間	特別活動
国語	特別の教科 道徳(道徳科)	外国語活動	総合的な学習の時間	学級活動
社会				児童会活動
算数				クラブ活動
理科				学校行事
生活				
音楽				
図画工作				
家庭				
体育				
外国語				

変わらないこと

引き続き努めてほしい
ことでもあるんだね。

道徳科は位置付けが特別
なんだね。

○道徳教育の基本的な考え方

- ・週1時間実施する道徳科の授業を要として、学校の教育活動全体で道徳教育を行います。
- ・内面的な資質である*1道徳性を養うことを目標とします。

道徳教育の評価は道徳科
の評価とは違うのね。

○道徳教育における評価

- ・学校生活における具体的な行為に現れたよさは、これまでどおり指導要録の「行動の記録」「総合的な所見」に記載します。

道徳教育と道徳科の関係

学校の教育活動全体で行う道徳教育



家庭や地域における道徳教育
学校生活や各教科等では、「体験」とお
して、道徳科では、「考え、議論すること」
とおして、道徳性を育みます。

○「要」としての授業の実施

- ・原則として学級担任が行います。学校・学年内で協力することが大切です。
- ・年間35時間(週1時間)を、確実に実施します。
- ・各学年に位置付けられた*2内容項目を全て実施します。

○家庭や地域社会との連携

○児童生徒が本音で語り合う道徳授業の実践

○郷土の特色を生かした地域教材等の活用

「ぐんまの道徳」
などね。

各学校で特に重要
であると決めた重
点内容項目を扱う
のよ。

例えば中学校は、年
間35時間で22の内
容項目を扱うから、
残りの13時間はど
うするのかな？

- *1 道徳性…
- 道徳的判断力… 善悪を判断する能力
 - 道徳的心情… 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
 - 道徳的实践意欲・態度… 道徳的判断力や道徳的心情によって道徳的行為を実現しようとする傾向性

- *2 内容項目… 人間としてよりよく生きる上で学ぶことが必要なことを短い文章で表したもの
(例:相手のことを思いやり、進んで親切にすること)

② 授業づくりの流れ

例えば、「A 善悪の判断、自律、自由と責任」において

価値観

本時で扱う内容項目について授業者が特に大切にしたいことを学習指導要領等を基に明らかにします。



価値観

自ら正しいと信じているところから、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする意欲を高めたい。

生活科、体育科等、様々な場面で、善悪の判断に関わる指導を行う

児童生徒観

授業者の価値観に関連する児童生徒のこれまでの実態と、実態から求められることなどを明らかにします。

児童生徒観

児童生徒の実態

よさ 善悪の判断と、よいと思うことを進んで行うことの大切さは理解できている。

課題 周りの友達に左右され、よいと思うことを進んで行えないところがある。

実態から求められること

人に左右されずに、よいと思うことを進んで行おうとする意欲を高めたい。

価値観、児童生徒観を受け、**考えさせたいこと**を明らかにします。



考えさせたいこと

よいと思うことを進んで行うことのよさや難しさ

教材観

考えさせたいことに基づき、1時間の授業で教材をどのように活用するのかを構想します。

教材観

教材「ほく、よびにいつてくる」

よいと思うことを進んで行うことのよさを自分との関わりで考えさせるために、ほんすけの行動の理由について考えさせたい。

よいと思うことを進んで行うことのよさを感じたときの気持ちを想像させたい

中心発問

ほんすけは、どんなことを考えて、「ほく、よびにいつてくる。」と言って走り出したのでしょうか。



【あらすじ】

主人公のほんすけたちがサッカーをしているところへほんたがやってくるが、数が半端になってしまうため、ほんきちにかくれるよう指示される。ほんたは気付かずに去ってしまうが、ほんすけはほんたのことが気になる。ほんすけはほんきちに「ほく、よびにいつてくる。」と言って走り出す。

指導方法の工夫

発問構成 役割演技 振り返りシート 等



価値観からスタートすること大切なんだよ。

つい教材観からスタートしちゃうんだけど、それじゃダメなの？



③「考え、議論する道德」とは

考える

- ・問題意識をもつ
- ・自分との関わりで考える
- ・自己を振り返る

議論する

(協働する、対話する)

- ・多面的・多角的に考える
- ・学級経営の充実を図る

「考え、議論する道德」への転換を図るために、導入、展開、終末の各段階において、以下のようなことに留意して指導の工夫を図りましょう。

子どもたちが安心して異なる意見を言い合える授業にするには、互いを認め合えるような学級づくりをすることが大切です。

指導過程	「考え、議論する道德」のチェックポイント
導入	<input type="checkbox"/> 児童生徒が、本時で扱う※1 道徳的価値について問題意識をもって授業に臨んでいるか。
展開	<input type="checkbox"/> ※2 道徳的価値の理解を、自分との関わりで深めているか。 <input type="checkbox"/> 物事を一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展させているか。
終末	<input type="checkbox"/> 深まった道徳的価値の理解を基に、これまでの自己を振り返り、気付いた自分自身のよさや課題から、よりよい自己の生き方への思いや願いを深めているか。

主体的に考えられるように、問題意識をもたせることが大切だね。

友達と協働したり対話したりすることをとおして、物事を自分ごととして考えたり、様々な視点で考えたりする過程だね。

よりよい自己の生き方につなげていくための工夫をする過程だね。



次ページでは、「はばプラⅡ」に基づく実践例を紹介します。



「自分」と「自己」ってどちらがうのですか？



自己を見つめる

自己

自分

「自己を見つめる」というのは、自分自身を第三者的な立場から見つめ、考えるということなのね。



※1 道徳的価値…よりよく生きるために必要とされるもの

※2 道徳的価値の理解

- 価値理解…道徳的価値のよさ、素晴らしさ(友達と仲良くすると本当に楽しいな。)
- 人間理解…道徳的価値の実現の難しさ(お年寄りに席を譲りたいけど勇気がいるな。)
- 他者理解…道徳的価値についての感じ方、考え方の多様さ(あいさつするときにも、様々な思いがあるんだな。)

「はばたく群馬の指導プランII」に基づく実践例

- ・「②授業づくりの流れ(2ページ)」を参考に、明確な指導観をもって授業を構想することが大切です。
- ・中心発問と補助発問を精選し、児童生徒の考えを深めることが大切です。(次ページ参照)

学習例 小学校 第6学年「C 公正、公平、社会正義」

ICT活用場面とよさを
チェック!



①本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

めあて:誰に対しても同じように接するために大切なことは。

誰に対しても同じように接していますか?

児童の道徳的価値に対する実態について、アンケート調査の結果を掲示し、問題意識をもてるようにする。



「いいえ」が予想より多いな。同じように接することは大切なのに…。

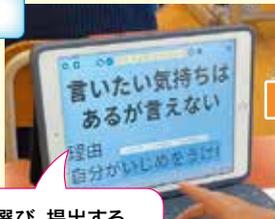
②教科書の教材文の範読を聞く。

友達のうわさ話を「それはちがう。」と言えなかった主人公。そのうわさ話によって仲間外れになる友達…。

③教材を通して道徳的価値についての考えをもち、交流する。

あなたが主人公だったら「ちがう」と言える?

言いたいけど言えないな。
みんなはどうなのかな。



立場によって色分けしたテキストを選び、提出する。



全員の考えを比較・共有し、多様な考えに触れる。

中心発問

(ある日の帰りの会で「うわさで人を判断してはいけない。」と発言する級友の姿を見て) 主人公はどんな気持ちから「言わなければ」と思ったのでしょうか。

全体やグループで話し合う。



何もできなかった自分が恥ずかしい。

みんなの前で発言して友達を助けよう。

補助発問

本音を引き出しながら、道徳的価値についての考えを広げたり、深めたりする。

言った方がいいけど、やっぱり少し怖いから言えないかも。

難しくないの?本当にできるのかな?

難しいかもしれないけど、見て見ぬふりはよくないと思う。

④道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

誰に対しても同じように接するために大切なことは何だろう。

周りの雰囲気や情報にまどわされないで正しいことをする。

相手のことを考えて、自分が正しいと思った行動をする。

うわさ話や間違った情報を信じて相手を傷つけないようにする。

⑤本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

児童の振り返りより

自分の考えをしっかりとって周りに流されないことが大切。今までは怖くてできなかったけど、これからは仲間外れやよくないことが起きていたら、勇気をもって注意していきたい。



本時の振り返りを端末に入力したり、ワークシートを撮影して提出したりする。

評価へ

子どもの考えを
深めるために

中心発問 と 補助発問

中心発問

- 本時のねらいに迫るために多様な考えを引き出す。
- 中心発問は教材の仕掛けを生かし、次のように考える。

教材

人物の道徳的変容の前

中心発問
のありか

変容が起きた
感動が呼び
起こされた

人物の道徳的変容の後

「意味」を問う

出来事、出会い
言葉、行動、物

添えられた
「心」を問う

中心発問

行為や言葉の裏にある
「意味」や「心」を問う。

例

- ◆「～～のとき、〇〇はどんな気持ちだったのだろうか。」
- ◆「Aとの出会いは彼に何を気付かせたのだろうか。」
- ◆「なぜ、〇〇は涙を流したのだろうか。」
- ◆「自分が□□の立場だったらどうだろうか。」

子どもたちの発言から
たくさんの考えを共有で
きるけれど、どうすれば
考えが深まるのかな？



補助発問

- 児童生徒の本音を引き出し、考えを深める。

例

- ◆ 考えの理由や根拠を明らかにする
「何でそう考えたの?」「それは、どういうことかな?」
- ◆ 考えをゆさぶる
「みんなはそう言うけど、本当にいいのかな?」
「この考え方で、こんな行動できるのかな?」「難しくないのかな?」
- ◆ 別の視点から考える
「〇〇のような場合は、どんな気持ち?」
「反対の立場から考えるとどうなるのかな?」
- ◆ 複数の考えを比較して考える
「AとBで共通すること(考え方)はどんなことかな?」
「AとBでどちらの気持ちが強いだらうか?」

中心発問で引き出した
多様な考えを基に、補
助発問で考えを深める
ことが大切です。



道徳教育に関する参考資料

- 群馬県教育委員会 各課発行・提供資料(道徳教育に関する資料)

<https://gunma-boe.gsn.ed.jp/>

道徳 群馬

検索



- 文部科学省 道徳教育

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/

- 「道徳教育アーカイブ」～「特別の教科 道徳」の全面実施～

<https://doutoku.mext.go.jp/>

「道徳教育アーカイブ」
では、「考え、議論する
道徳」の授業づくりの
参考になる授業映像も
見ることができます。



④ 道徳科における評価とは

① 数値による評価ではなく、記述式です。

② 他の子どもとの比較による評価ではなく、子どもがいかに成長したかを積極的に受け止め、励ましていく個人内の評価です。

③ 一人一人の子どもの学習の様子や学習の成果の優れたところや成長が見られるところを評価します。

見える

授業での姿

授業における発言、記述など

見えない

心の内面

授業を通して養われる道徳性

評価方法

- 観察 聞き取り
- 会話
- 作文 レポート等
- ワークシート

道徳性は心の内面のもので目に見えないわけだから、安易に評価するわけにはいかないものね。

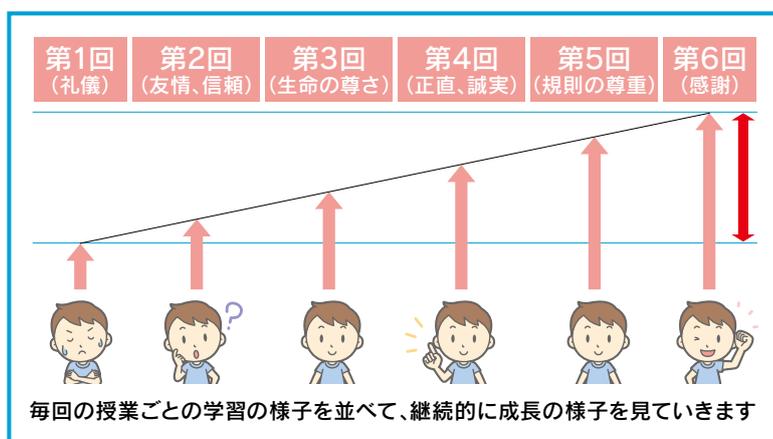
親切にすることの大切さについて、生活経験をもとに発言している。

授業での「様々な見方や考え方ができたか」「自分ごととして考えられたか」などの目に見える姿を評価するんだね。

本当の親切とは、相手の立場に立って、相手の気持ちや思いを考えてすることであるから、今後はもっと相手の立場に立った親切をしていきたいという態度が育っている。

④ 学期や年間ごとに、個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価を行います。

※指導要録には、評価欄を設定し記載します。



「学期や年間での成長」ということは、特に成長が見られた授業のことを記述してはいけないの？

学期や年間での成長の様子を認めつつも、特によさが見られた授業があれば、そのことを認める記述を入れることがあってもいいんだよ。

⑤ 調査書(内申書)については、中学・高校入試において、情報を提供したり、合否判定に活用したりするようなことはしません。

内容項目の学年段階・学校段階の一覧表

	小学校キーワード	小学校第1学年及び第2学年(19)	小学校第3学年及び第4学年(20)	小学校第5学年及び第6学年(22)
A 主として自分自身に関	善悪の判断、自律、自由と責任	(1)よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	(1)正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	(1)自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。
	正直、誠実	(2)うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。	(2)過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。	(2)誠実に、明るい心で生活すること。
	節度、節制	(3)健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わかまをしないで、規則正しい生活をする。	(3)自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。	(3)安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけること。
	個性の伸長	(4)自分の特徴に気付くこと。	(4)自分の特徴に気付く、長所を伸ばすこと。	(4)自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
	希望と勇気、努力と強い意志	(5)自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	(5)自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。	(5)より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
	真理の探究			(6)真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。
B 主として人との関	親切、思いやり	(6)身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	(6)相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	(7)誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。
	感謝	(7)家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7)家族など生活を支えてくれた人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。	(8)日々の生活が家族や過去からの多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。
	礼儀	(8)気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	(8)礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。	(9)時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。
	友情、信頼	(9)友達と仲よくし、助け合うこと。	(9)友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	(10)友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
	相互理解、寛容		(10)自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。	(11)自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
C 主として集団や社会との関わり	規則の尊重	(10)約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	(11)約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。	(12)法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。
	公正、公平、社会正義	(11)自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。	(12)誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。	(13)誰に対しても差別をすることなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。
	勤労、公共の精神	(12)働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。	(13)働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。	(14)働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。
	家族愛、家庭生活の充実	(13)父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	(14)父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合っって楽しい家庭をつくること。	(15)父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。
	よりよい学校生活、集団生活の充実	(14)先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。	(15)先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っって楽しい学級や学校をつくること。	(16)先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っってよりよい学級や学校をつくることにも、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	(15)我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	(16)我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。	(17)我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。
	国際理解、国際親善	(16)他国の人々や文化に親しむこと。	(17)他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	(18)他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わり	生命の尊さ	(17)生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	(18)生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。	(19)生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
	自然愛護	(18)身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。	(19)自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。	(20)自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。
	感動、畏敬の念	(19)美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	(20)美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。	(21)美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。
	よりよく生きる喜び			(22)よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。

	中学校キーワード	中学校(22)
A 主として自分自身に関	自主、自律、自由と責任	(1)自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。
	節度、節制	(2)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。
	向上心、個性の伸長	(3)自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。
	希望と勇気、克己と強い意志	(4)より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。
	真理の探究、創造	(5)真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。
B 主として人との関わり	思いやり、感謝	(6)思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。
	礼儀	(7)礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。
	友情、信頼	(8)友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。
	相互理解、寛容	(9)自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。
		(10)法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。
C 主として集団や社会との関わり	遵法精神、公德心	(11)正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。
	公正、公平、社会正義	(12)社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。
	社会参画、公共の精神	(13)勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。
	勤労	(14)父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。
	家族愛、家庭生活の充実	(15)教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合っってよりよい校風をつくることにも、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。
	よりよい学校生活、集団生活の充実	(16)郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。
	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	(17)優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	(18)世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わり	国際理解、国際貢献	(19)生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。
	生命の尊さ	(20)自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。
	自然愛護	(21)美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。
	感動、畏敬の念	(22)人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。
	よりよく生きる喜び	